

平成29年度 第2回総合開発委員会会議録（要旨）

【開催日時・場所】

平成29年8月21日（月） 13：30～ 八雲町役場第1・2会議室

【出席者】 委員：木村滋、坂野俊樹、刀禰清貴、平野百合子、戸田美恵子、秋松等、

阿部政邦、長江隆一、日村伸、大野博子、吉田久子、竹浜俊一

町長：岩村町長、伊瀬副町長、植杉副町長、各課長

傍聴者：2名

コンサル：1名

【要旨】

○第2期八雲町総合計画の策定について説明し、質疑を受けた。

○地方創生総合戦略効果検証について説明した。

○事務事業等の見直し方針の進捗状況について説明した。

【内容】

1. 開会

2. 町長挨拶

3. 会長挨拶

4. 議事

(1) 第2期八雲町総合計画基本計画について

資料1、資料1-1について企画振興課企画係長より説明。

・質疑

(委員)

・81ページの数値目標「町連協加入町内会」の「現状値105」「目標値106」となっているが、八雲町全体で考えると「現状値125」「目標値126」となるのではないか。

(町)

・委員おっしゃるとおり、八雲町全体で勘案すれば熊石地域に20の町内会があるので、「現状値125」「目標値126」と修正する。

(町)

・1点目は昨年11月に第2期総合計画に肉付けするため3日間延べ9時間の町民

会議を開催した。その中で「協働の日の設定」「地域産業育成基金の実施」「デマンド型コミュニティ交通の導入」「ゴミステーションの増設」などの提言があった。すべての提言が計画に反映されるとは思わないが、基本計画に反映されていないように見える。詳細については、実施計画で進められるのか。

- ・ 2点目は65ページの安心ほっとネットについては、過去何年も議論がなされていない状況である。推進するためには町連協や社会福祉協議会、行政で話し合いを進めていかなければならないが、議論が止まっている状況で数値目標を設定するのはいかがなものか。

(町)

- ・ 1点目の町民会議で出された意見がどのように活かされていくのか、実施計画で具体化されるのだろうかということだが、委員おっしゃるとおりである。例えば協働のまちづくりでいうと、82ページ住民参画の推進の基本的な方向でお示ししている。具体的な内容については、実施計画に明記し実施していくということなる。また実施計画については、毎年ローリングを行いこのような意見を踏まえながら、見直しを実施していくと考えている。
- ・ 2点目の安心ほっとネットの取り組みについて、3者で協議し進めていくことは間違いない。町のコミュニティ助成事業の中でも、普及を図るということで取組を行うと町内会へ助成金が加算される仕組みになっている。声掛け運動を始め、見守りを町内会で行っていきこうということで現在72の町内会が取り組んでいるが、更なる推進を図るため目標値を80としているところである。
- ・ 平成20年に立ち上がった事業であるが、平成24年度の会議が最終となっている。今後、町連協と相談し、会議を開いていきたいと考えている。

(委 員)

- ・ 現在動いていない事業について現状値や数値目標を設定することに違和感がある。再考していただきたい。今答えていただく必要はない。

(委 員)

- ・ 1点目は49ページの取組の基本的方向農業をテーマとした新幹線駅周辺の整備や学術機関の誘致と記載があるが、具体的なイメージがあればうかがいたい。
- ・ 2点目は59ページの温泉熱の利用について、熊石が行っている温泉熱による発電に一切触れられていない点が気になる。

(町)

- ・ 1点目の農業をテーマとした新幹線駅整備のイメージについては、八雲町の副都心的な市街地をその周辺に建設するのではなく、牧歌的な風景を活かした

最低限の開発の中で整備を進めたいと考えている。学術機関の誘致については、具体的なことは決まっていないが、域学連携で協定を結んだ中で活動している。例えば各大学の学生交流を含めた取り組みを行っている中で、新幹線開通による時間距離短縮によって、学生が行き来できるかどうか可能性を探りたいというイメージをもっている。

- ・ 2点目の温泉エネルギーについて、熊石地域の温泉熱について記載している。委員おっしゃるとおり、熊石地域を含め2か所で地熱開発を行っているが、個別企業の事業だが町としても再生可能エネルギー導入促進ビジョンを昨年度策定しているので、推進を図るために協力していくという立場でいる。

(委員)

- ・ 1点目について、学術機関の誘致は農業のテーマとは関連のない学術機関なのか。
- ・ 2点目について、熊石で地熱発電が2か所進められているがそのことを記載する必要はないか。

(町)

- ・ 1点目の学術機関の誘致については、具体的にどこを誘致するかということではなく、これに向けて努力していくという方向性を示すものである。
- ・ 2点目の地熱発電については、再生可能エネルギー導入促進ビジョンの中に地熱発電だけではなく、風力発電や太陽光発電等も含めた内容を記載している。第2期総合計画に現在行っている地熱開発のみを取り出して記載しなくてもよいと考えている。60ページの施策の概要に「再生可能エネルギーを活用したまちづくり」の中で企業に地域貢献していただくことを踏まえ、町民と話し合いながら事業を実施していきたいと考えている。

(委員)

- ・ 現在の記載によると、学術機関の誘致は農業をテーマとしたものにする読み取れ、違和感がある。

(町)

- ・ 新幹線駅周辺のイメージは、八雲町らしい牧歌的な風景を活かし、その中の1つとして農業関係の大学の誘致も考えられるということである。

(委員)

- ・ 54ページの施策の概要の「(仮)産業振興条例の創設」とあるが、内容を教えていただきたい。

(町)

- ・ 町民会議の「地域産業育成基金の実施」という提言も踏まえて、現在企業立地促進条例や中小企業育成資金融資規則等があり、これらを包括的にした条例を考えている。1つの条例の中に産業の発展や地域経済の活性化につながる

るような条例にしていきたい。

(会 長)

- ・事務局からの補足説明がある。

(町)

- ・以上で本日の総合計画の基本構想・基本計画の審議は実質終了する。先ほどご指摘いただいた81ページの町内会数について修正し、今月下旬からパブリックコメントを行う。パブリックコメントによる修正がなければ、素案どおり町長に総合開発委員会から答申を行う。その際は会長と副会長から答申する。仮にパブリックコメントにより大きな修正が発生すれば再度総合開発委員会を開催し、委員の承認を得て町長へ答申を行う。

～休憩～

(2) 地方創生総合戦略効果検証について

資料2-1、2-2、2-3について企画振興課企画係より説明。

- ・質疑なし

(3) 事務事業等の見直し方針の進捗状況について

資料3について企画振興課企画係長より説明。

- ・質疑なし

5. その他

(委 員)

- ・駅に向けた構想が夢を持って語られているが、トンネル周辺に住む住民として、有害物質を含む土の搬入先がなくなっており、現在は自身の放牧地に放置されていることに不安を感じる。最終的な置き場所はいつになったら明らかになるのか。以前も新聞に取り上げられたが、現在、この有害物質を含む土の行方についての町の取組や情報を伺いたい。

(町)

- ・現在、委員の土地を借りて土を置いている状況で、鉄道・運輸機構よりその旨の報告は受けている。最終置き場については、リサイクルセンターの奥の町有地に土を置くように鉄道・運輸機構で環境調査や地質調査等を行っており、10月頃に結果が出る予定である。また土の置き方についても鉄道・運輸機構で重金属等に精通している大学教授等で構成した検討委員会を行う。これらの結果をもとに漁協や住民の皆様等へ説明会を行い、了承をいただくという流れとなる。

(会 長)

- ・他になければ事務局から何かあるか。

(町)

- ・先ほども説明があったが、今月下旬にパブリックコメントを一か月程度行い、意見が無ければそのまま町長へ答申となる。その後、11月開催予定の臨時会へ提出することとなる。パブリックコメントで変更がなければ、次回の総合開発委員会は12月中を予定している。

6. 閉会